



公益財団法人日本野鳥の会 アカコッコ保護事業報告書 2012 - 2015 年度

日本野鳥の会のアカコッコ保護事業では、伊豆諸島とトカラ列島のみに生息する日本固有種で環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類に選定されている「アカコッコ」の個体数回復を目的に、重要な繁殖地である東京都三宅島を中心に調査や環境整備、普及教育活動などを行なっています。



アカコッコとは

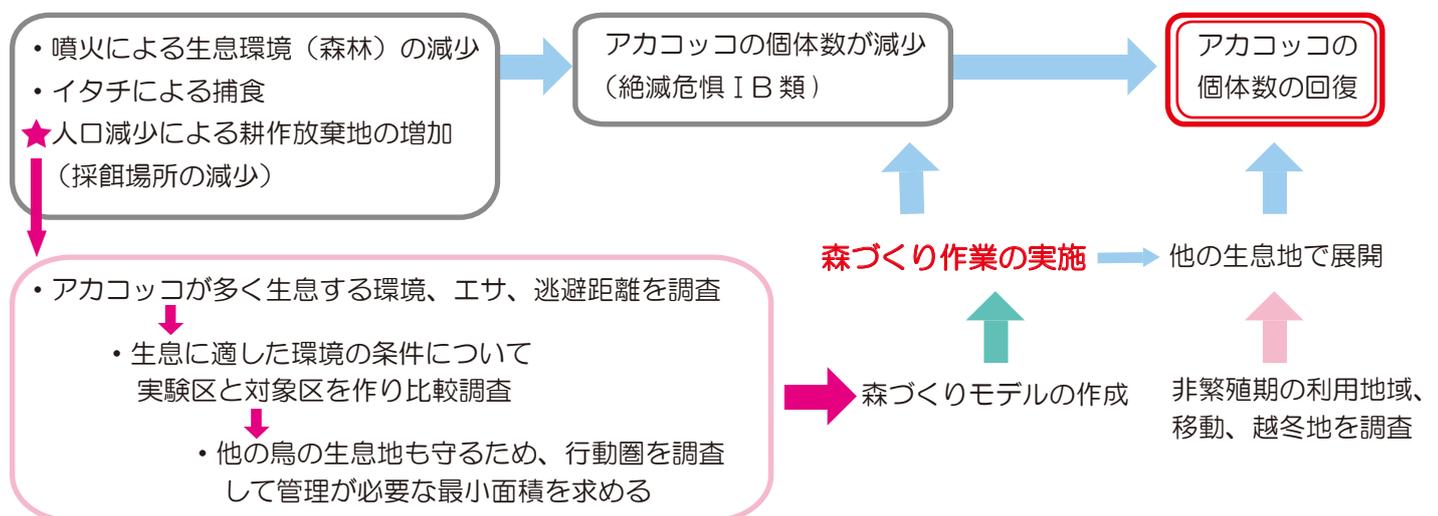
アカコッコは、森林にすむ体長約 23cm のツグミの仲間です。三宅島には、かつて 5ha に平均 28.8 羽が生息するほど多くのアカコッコがいましたが、1970、80 年代にネズミ駆除のためにイタチを移入した後、個体数が激減し、繁殖成功率も低下しました。さらに、2000 年の噴火後、島内の森林面積の減少や林内環境の変化により個体数が減少し、レッドリストのランクが絶滅危惧Ⅱ類からⅠB類に引き上げられました。

アカコッコ保護事業

本事業の目的を①アカコッコの生息地を増やすための森づくりモデルの確立と普及、②三宅島における森づくり作業の実施、③外来捕食者（イタチ等）への対策に定め、2012 年に調査計画・準備や保全計画を作成しました。

2013 年から 2015 年の 3 年間は、主に目的①を達成するため、アカコッコの生息に適した環境の解明と必要な面積を明らかにする基礎調査を行ない、その結果を基に森林内の環境を実験的に管理しアカコッコの利用状況を調査しました。また、実験区において島内外からボランティアの協力を得て林内の環境が適した状態に保てるように継続して環境管理作業を行ないました。

この 3 年間の調査から、アカコッコに必要な森林環境の整備について幾つかのポイントが明らかにできたため、2016 年からは森づくりの普及のためのリーフレットの作成や三宅島内で森づくりの担い手、賛同者を増やす取り組みを始めました。また、引き続き生息環境として必要な要件を調査すると共に、他の保護活動を行なう必要がある生息地を明らかにするため、非繁殖期の移動や利用地域、越冬地などの調査を始めています。





各活動の様子

1) アカコッコの個体数調査を行った三宅島内 11 コースで、コドラート内に生えている樹木の本数や太さなどを記録し、アカコッコの個体数との比較を行なった結果、林床にササの生えていない照葉樹を好むことが分かりました。また、採餌場として下草がない林床を好む傾向も示唆されました。



2) つる植物や草等の下草や低木の有無によるアカコッコの利用の違いを明らかにするために、隣接地に下草等を刈った実験区と管理をしない対照区をつくり、アカコッコの利用個体数を比較した結果、実験区の方が利用する個体数が多くなることが分かりました。また、アカコッコが採餌している場所のエサ量の調査や人からの距離を確認するための逃避距離調査なども合わせて行ないました。



3) 捕獲したアカコッコにカラーリングを装着し、放鳥後、野外で足環個体の出現する場所を確認することで行動圏面積を求めました。最も大きく動いた個体でも 1.53ha と狭い範囲を利用していることが分かりました。また、水場だけで確認される個体があったことから水場の重要性が示唆されました。



4) 上記の調査結果から、下草の少ない照葉樹林をアカコッコが好んで利用することなどが分かったため、2014、2015 年度にボランティアのご協力を得て、三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館の近隣の村有林でアカコッコのための下草管理作業を行ないました。



これからの活動

今後、森づくり活動を島の内外に広げていきたいと考えています。そこで森づくりの効果を確かめるために 2016 年 5 月に三宅島でアカコッコの総個体数調査を行ないました。この調査は島民 19 名が参加し、当会職員 7 名と合わせ 26 名で実施しました。また、7 月には非繁殖期の利用地域、越冬地、移動経路などを明らかにするためジオロケータを 11 個体に装着し、放鳥しました。来年三宅島に戻ってきた個体から移動についての新しい知見が得られることが期待されます。



産業祭での展示



総個体数調査



ジオロケータを装着した個体